

令和7年10月14日(火)

15:30～17:00

令和7年度第2回 三国丘高等学校学校運営協議会 (全日制部会) 議事録

三国丘高等学校校長室  
書記 田村聡、吉村駿人

出席者

[委員]

田中会長、仲林副会長、井上委員、長瀬委員、吉岡委員(河野委員:ご欠席)

[学校]

藤井校長、田中教頭、中島事務部長、大塚首席、渡部首席、北川教諭(3学年主任) 辻本教諭(2学年主任)、盛山教諭(1学年主任代理)、中屋教諭(進路指導主事) 神宅教諭(SSH研究主任)、平木教諭(SGH研究主任)、田村教諭(記録)、吉村教諭(記録)

議事

(1) 令和7年度学校経営計画の進捗状況について

校長 今年度が始まってから本日まで行われた行事を中心に説明いたします。今年度の体育祭は大浜体育館で開催いたしました。生徒約1000名、当日お越しいただいた保護者約900名全員が観客席に入ることができ、非常に快適な環境の下で体育祭を行うことができました。屋内での体育祭の開催を今後も継続していきたく思います。続いて、広報活動についてです。今年度は、昨年より2回多い、13回の広報・説明会等に参加しております。どの会場でも多くの方にご参加いただき、実りの多い広報活動が行えていることを実感しております。本校の志願倍率は毎年1.3倍以上を維持しております。去年は1.35倍でしたのでこの数字に近づけることができるよう、広報活動を続けていきたいと思っております。

委員 多くの説明会を実施される中で、三国丘高校に入学したいと考えてくださる中学生の層の変化のようなものを感じられることはありますか。

校長 説明会に来て話を聞いてくださる方は、皆さん熱心に話を聞いてくださいますが、社会の大きな流れとして中学校から私立へ、或いは高校から私立へ専願で進学する子どもたちが増えているように感じます。そのような動きを食い止めるためにも、三国丘高校ならではの強みや大阪市内のGLHS指定校に勝る三国丘の魅力を作り出し、三国丘高校で学びたいと思えるような環境を提供し、それを小中学生に周知していくことが大切であると考えております。

(2)各学年の状況について

○3年生について

学年主任 卒業、大学受験までいよいよ半年というところまで来ましたが、これまで指導し続けてきた、大学入試だけに目を向けるのではなく、高校生として正しい学校生活を送ることが生徒にも届き、出席や遅刻の数に形として現れてきていると考えております。遅刻の数は今年の3年生の数を大きく下回り、去年の自分たちの数よりもさらに少なくなっているという状況

です。生徒指導部の先生や、夏休み中の自習室開放に協力していただいた先生のご協力もあり夏休みを挟んでも生活習慣が乱れることなく、規則正しく学校生活を送れている生徒がほとんどです。卒業までこの学校生活を維持できるよう、指導してまいります。

#### ○2年生について

学年主任 修学旅行を直前に控えており、今年は台湾に行かせていただきます。台湾では現地の4つの高校と交流させていただきます。また、忙しい毎日の中でも学習時間をしっかりと確保するために、生徒一人一人が学習時間を可視化するような指導をしています。

委員 夏休みの課題は設けていますか？

学年主任 79期生では自主学習の時間を確保するために、各教科の課題を次第に減らしていくという方針で動いております。さすがに課題を全てなくすることはできていませんが、3年生になった頃には課題をすべてなくしてそれぞれが学習したい内容を学習しただけするという目標を持っております。

#### ○1年生について

学年主任代理 とにかく元気が良い生徒が多いです。そのエネルギーを学習や部活動など、様々なところで発揮してくれることを願う毎日です。ただ、時間を守ることに関しては厳しく指導しております。

#### (3)スーパーサイエンスハイスクール(SSH)今年度の取り組みについて

SSH 研究主任 SSHの第IV期(新制度における発展Ⅱ期)を申請するにあたり、本校での取り組みの中で大きく変わるのは、現在3年生が選択科目として設定している探究活動を今後は必修化する必要があるということです。その他、継続して様々な種類の体感校外学習や科学系コンテストへの生徒が参加しやすい環境作り、情報提供などに努めてまいります。

委員 研究者の輩出実績などの調査は学校で行っていますか？

SSH 研究主任 卒業生の追跡調査に関しては本校における課題の一つであります。大学進学後も卒業生の活躍を追跡する制度構築に向けて動き出すことを考えております。

#### (4)スーパーグローバルハイスクール(SGH)今年度の取り組みについて

SGH 研究主任 夏に実施したフィリピン研修についての報告です。今年度の研修では、現地の公立小学校への訪問を通して、発展途上国の実情に触れることができました。今後の課題としては、英語の事前学習の拡充、現地の気温や湿度を加味した行程の見直しが挙げられます。

委員 SGHの活動は、キャリア形成や勉学に関するモチベーションにつながっていますか？

SGH 研究主任 海外研修をはじめとするSGHの活動を通して、行きたい大学や研究したい分野ができた生徒も見られます。そういった観点から、SGHの活動は種々のモチベーションにつながっていると考えています。

委員 SGH、SSHの取り組みや学校行事と、勉強への姿勢は結びついていますか？

進路指導主事 SGHやSSHなどに積極的に参加する生徒たちは、それぞれの活動を通して、自身の興

味が惹かれる事柄を見つけ、同時に時間の管理に慣れていきます。限られた時間のなかで部活動や生徒会活動に取り組み、その上で勉強についても手を抜かず、興味を持った内容について、自ら深掘りしながら学習しています。

#### (5)進路指導関係の状況について

進路指導主事 共通テストについて、今年度から web 出願が導入されました。私立大学を第一志望としている生徒が共通テスト利用等を視野に入れて出願したこともあり、今年度の出願率は100%となりました。

特別選抜（国公立大学：学校推薦型・総合型選抜）の出願状況については昨年度と同様40名程度となる見込みです。

委員 出願状況について、昨年度からの変化はありますか？

進路指導主事 国公立大学の出願においては、名古屋大学といった、地方大学に出願している生徒が増加しました。それぞれの生徒が、本当に入学したい大学がどこなのかを調べ、考えた結果だと考えています。

#### (6)その他

委員 同窓会としては、お金の使い道について、子供たちの未来のためになるような使途の提案があれば、ぜひ共有してほしいです。

委員 SSH、SGH に関して、卒業生の大学における実績を追跡、整理しておく方がよいと思います。

委員 学校説明会において、生徒が学校を案内していることに感心しました。

委員 勉強や部活、SSH、SGH をはじめとした多様な活動、それらすべてに生徒が打ち込み、またそれができる環境が整っていることに感銘を受けました。

#### 次回日程

2026年2月3日（火）15時頃開催